

総合技術研究所・講師・今井 智子

imaitomoko@aitech.ac.jp

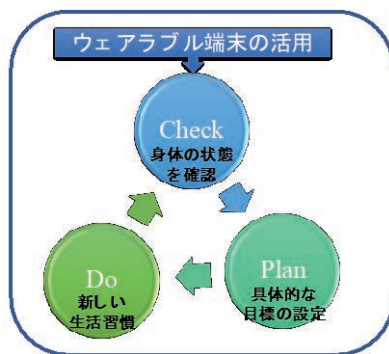
キーワード ウェアラブル端末、生活習慣、非感染性疾患

概要

人生100年時代を見据え、幅広い世代が活躍する新しい社会システムの構築が進められている。一方、生活スタイルの変化に伴う身体活動量低下が非感染性疾患の罹患リスクを高め、健康寿命を害することが懸念されている。

近年、生体センサの進展により汎用性の高いスマートウォッチをはじめとするウェアラブル端末が広く普及してきた。これらの端末には連続的に生体情報を蓄積および分析する機能が装備されているため、生活習慣を見直す有用なツールとなり得る。

しかしながら、ウェアラブル端末の利用法は利用者に託されているため、着用のみで非感染性疾患予防の有用な手段となるか明らかではない。したがって、ウェアラブル端末を活用するための「活用法」の開発により、新たな非感染性疾患予防法の確立に貢献できる可能性がある。



セールスポイント

1. 視覚化された生体情報を活用することで、多様化した生活スタイルに合わせた予防法の提案ができる。
2. 開発の成果が実践に反映されやすい。
3. 既存の機器を活用することで開発コストを抑えられる。

企業等での活用例、今後の展望等

1. SDGs 3「全ての人に健康と福祉を」に貢献することができる。
2. 健康経営の取り組みとして期待できる。
3. ライフステージに合わせた行動変容モデルを開発することができる。

参考資料

愛知工業大学教育・研究助成 2019（令和元）年度報告書
生体情報「可視化」を活用した生活習慣改善の教育的取り組み pp10-11